環境文明２１での活動を通して

川本　悠月　（かわもと　ゆづき／2022年度インターン生）

8か月前、エシカルコンシェルジュ講座を受けた直後、一部の人だけではなく、全ての人が、社会全体が変化していくために必要なことは何かを考えた時、社会の制度などのルール的な面からアプローチすることの必要性を感じていました。その時、政策提言を行っていることをきっかけに環境文明21を知り、それに加え、文明に注目しているところに興味を抱きました。環境問題が経済、社会、ライフスタイルなどいわば文明の在り方と密接に関係しているという考えに深く共感し、インターン活動を開始させていただきました。

日本に対して漠然と危機感を抱きつつ、何をしたらよいのか分からなかった中で、まずは、日本の現状を知りたいと思っていました。活動を通して、日本で環境問題への関心が少ないのは、政治によるものが大きいとの認識が強くなりました。コノヱさんは会報の中で何度も国に対する不信感を訴えていますが、私も最近行われた首相の施策方針演説で、脱炭素について述べられることが明らかに少なく、地球温暖化にも触れられていなかったことに不安を感じています。先日の環境文明塾では、ヨーロッパなど、経済が発展し福祉も充実するなど、基本的なニーズが満たされたからこそ、環境に関心を向けられるという考えを知りました。首相の演説でもあったように、日本は、環境問題よりも物価上昇や防衛策、少子化対策など、取り扱うべき問題が多いということです。しかし、だからといって環境に注目せず、というようでは本当に取り返しのつかないことになってしまいます。

また、日本において無関心な層が多いのは、環境問題を解決するためには今の生活の質を落とさなければならないという「負担意識」があるからであること。一方で、個人だけの行動では1.5℃目標には全く足りず、むしろ個々人の行動で満足してしまうと結果的に現状の社会経済システムの許容に繋がってしまうというのは江守正多さんの考えです。ここからは、やはり、社会の変革が必要であると感じます。環境文明21が主張するように、文明のあり方の見直しが必要なのです。

以上のことに加え、インターン中には環文ミニセミナーや環境文明塾での会社の方の生の声など、たくさんの意見・考えに触れることができました。様々な葛藤を抱えていらっしゃる社員の方の言葉は今でも心に残っています。毎回、新たな発見が多く、多くの学びがあったと共に、もっと学んでいかなければという思いが強まりました。そして、自分にできる、できるだけ環境に負荷のかからない暮らしは当たり前に継続していくと共に、それ以上に私たちが政府へ、社会へ呼びかけることの大切さを知りました。一市民としての自覚を強く持たなければと思っています。

最後に、私は、環境文明21の活動がもっと広まってほしいと強く願っています。特に会報はもっと多くの方に読んでもらいたいです。People care when they know. の言葉にあるように、人々は知れば気にかけ、知らなければそのままです。環境問題だけにとどまらず、その他の多くの問題についても、目を向け、自分にできることを模索し続けていきたいです。